

## 令和6年度 2年1組英語コース サマーキャンプ



英語コースのみなさんが、夏休み期間を利用して、2泊3日のサマーキャンプを行ってきました。ALTと一緒に、英語による積極的なコミュニケーション活動を行いました。

神崎梨里愛（有明中）

英語コースでは、英語をより深く学ぶことができます。単語の意味や文法等の知識の習得だけではなく、長文を読みながら著者の意図や主張を理解する時のコツ等も学びます。その中で、つなぎ言葉や使用語彙の役割、論理の展開などを身につけることができます。サマーキャンプでは、クッキーと団子作りの調理活動で日米の食文化の違いの一端を知ったことが楽しかったです。



武田美緒（串間中）

英語が苦手だから英語コースは厳しいかもと思っている人も多いと思います。私も文理選択の最初はそうでした。でも、英語を学ぼうとする意欲があれば大丈夫です。英語コースの授業では、たしかに英語を使う活動が多いですが、意欲があればついていけないことは絶対になりません。サマーキャンプでは、思っていたより英語を話すことは難しくないことに気がきました。

川越海琥（大崎中）

僕は英語が苦手なため英語コースに入りました。大学受験では、英語は合否を分ける重要科目です。英語を本気で学びたいなら英語コースはぴったりです。でも、英語コースに所属しているから英語の力が伸びるわけではありません。全ては自分次第です。英語コースの恵まれた環境で本気で勉強したら、自分が向上できます。



# 地域とともにあゆむ

## 事業所と高校生の交流会



志布志高校の1年生を対象に、志布志市役所コミュニティ推進課ダイバーシティ推進グループによる「事業所と高校生の交流会」が行われ、市内事業所の方々と高校生とが「誰もが活躍できる職場」をテーマに意見を交換しました。お茶の水女子大学の高丸理香先生にご助言をいただきながら、活発な交流会となりました。

高校生にとっては、将来の職業について考えたり、各事業所の特徴や魅力について知ったりする場となりました。時に真剣に時に優しく話していただき、地元企業で働くことに興味を抱く生徒もたくさんいたようです。

また、事業所の方々にとっては、高校1年生の「ホンネ」に触れて、「誰もが活躍できる職場」を実現するためのヒントを得る場となりました。高校生の素直な視点が、自分たちの職場を振り返る機会になっていたようです。

今回の交流会は、自分のキャリアを形成する上で、大変貴重な機会となりました。今回の経験を生かし、職業のこと、地域のことについて、今後より一層、問題意識を高めていってほしいです。



### 志布志高校のOB・OGの方々もたくさんいらっしゃいました！

☆地元の事業について詳しく聞くことができ、地元で働くことに興味がわいたので、もっと多くの事業について自分で調べてみたいと思った。

☆どの企業も昔の考えを切り捨てて今の新しい時代へのとった考え方に変わっていくことが大切だと言っていた。さらにある人は、「昔はYesか、はいか、分かりましたしか言えなかった」と言っていて、「今は、やったことのないことでもやってみる気持ちが大切」で、確かに考え方が変わってきてるなと感じた。

☆地元にはどんな企業があって、どんな職種があるかをもっと知りたいと思った。

☆どの企業の方も楽しそうに話をしていた。

☆会社によって良いところが違っていたので、自分にあった職場で働きたいと思った。将来を考えるよい機会になった。

☆育児休や在宅ワークもあり女性やみんなが働きやすい環境だった。

☆社会に出たとき、大切なことや重視すべきことを改めて知ることができた。

☆こういう交流会に参加してくれる会社が人がたくさん集まったり発展していったりするんだろうなと思った。

☆性別がどうであれ、その人に責任感があれば誰だってリーダーシップを発揮できる。

### 来校していただきありがとうございました！

☆どの事業所も様々な制度や取組み、工夫がされていてすごいと感じた。人間関係や雰囲気がよくこんな会社で働きたいと思った。

☆会社が社員のことを考えて寄り添っていることがとても心に残った。

☆意見を言い合う環境をつくっているというのが心に残りました。

☆人間関係が職場関係に影響すること、どんな仕事であってもやりがいを持って仕事をされていることが印象に残った。

☆交流会を通して「働くこと」を身近に感じることができました。将来の夢や進路に活かしていきたいと思えます。